

六月読み取りおけいこ（高）②

名前（）

六月の花といえばアジサイですね。雨にうたれても、カタツムリが乗つかっていても、絵になります。

そもそもなぜアジサイというかというと、あざさあい、すなわち集まつた藍色という意味らしいです。たしかに言われてみればそうですが。

でも、最近は品種改良が進んで、藍色だけでなく、水色、ピンク色、白、紫色、などたくさんの美しい花の色が生まれています。色だけではありません。形もさまざまです。名前はその品種を作り出した人がつけることができるのを、今やどんどんおもしろい名前の昔なかつたアジサイが世に送り出されています。例えば、「ダンスパーティー」という名前のアジサイは風が吹くとまるで、ピンクの衣装をまとつたおどり子がおどつてているように見えるのです。じつは、アジサイにはおもしろい名前の話があります。動植物には学名というものがつけられます。江戸時代のおりごろ日本にやつてきたドイツの医者・博物学者シーボルトという人は、日本の奥さんだつたお滝さんという人の名前をアジサイの学名にしたかつたらしいです。それで、ヨーロッパではアジサイはオタクサとよばれそうになつたのですが、実はすでに新種として登録されていたものとシーボルトが日本から持ち込んだものが同じだったとわかり、今ではオタクサという名前は消えてしましました。

でも、日本で一番有名な植物学者、牧野富太郎はこれを知り、そのあとで自分が発見したササに奥さんの名前をつけました。それが今でも図鑑にのつている「スエコザサ」というササです。みなさんも将来新種を見つけて、自分の名前や大好きな人の名前をつけてみたらいかがかな？

① 何の話でしよう？

② アジサイってどういう意味があるらしいのでしよう？

③ シーボルトはどこの人でしたか？

④ シーボルトの職業はなんですか？

⑤ シーボルトの日本の奥さんの名前は？

⑥ シーボルトは奥さんをどう呼んでいたのでしよう？カタカナ四文字で答えましょう。

⑦ なぜちゃんとお滝さんと呼ばなかつたのでしよう？あなたの考えを書きましょう。

⑧ 牧野富太郎はどういう気持ちで奥さんの名前をつけたと思いますか？

（ ）憎しみ（ ）感謝（ ）怒り

⑨ あつてているものに○をつけましょう。

（ ）今もアジサイの学名はオタクサだ。

（ ）命名もひとつの愛の現れだ。

（ ）スエコは牧野富太郎のおかあさんだ。

⑩ 上の話の感想を五行でまとめましょう。

